

Title	吐魯番出土文物研究会會報 第66号 : 大会特集
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会會報. 1991, 66, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78877
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第5回吐魯番出土文物研究会大会のご案内

本年も下記の要領で、吐魯番出土文物研究会の第5回大会を開催致すことになりました。本年は、会員のひとりで、本会の事務局を担当されている荒川正晴氏が調査のため先月中旬から今月下旬まで中国の新疆維吾爾自治区に滞在中で、大会には参加できません。また今夏は龍谷大学大宮図書館の龍谷蔵が薰蒸の時期と重なるため、大谷文書の閲覧はできなくなりました。したがって研究発表を中心としたスケジュールになるとおもいます。

【記】

期 間：8月21日（水）～8月23日（金）／2泊3日

会 場：興正会館／京都市下京区七条通堀川上ル・☎075（361）7666，

FAX 075（343）2124

集 合：8月21日午後5時・興正会館（なお興正会館のチェック・インは午後4時で、夕食前に日程の最終打合わせを行ないます）

題 目：

李柏文書の基礎的観察と諸問題

片 山 章 雄

唐代の折衝府の等級と 西州の折衝府に関する覚書

— 編纂史料と出土文書の相互補完を求めて —

白 須 淨 眞

高昌田租試論

— 二系列の田租を論じて土地制度に及ぶ —

關 尾 史 郎

麴氏高昌国時代の 寺院經濟文書について

町 田 隆 吉

(以上)

‡ 本会受贈図書・雑誌一覧 (1990.8~1991.7)

○小田義久氏 (龍谷大学文学部)

- * 龍谷大学仏教文化研究所編・小田義久責任編集『大谷文書集成』第貳 京都 法蔵館・龍谷大学善本叢書10、1990年3月

○栄新江氏 (北京大学中国中古史研究中心)

- * 中国敦煌吐魯番学会秘書処編『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1989年第1期 (総第16期) ~1990年第1期 (総第18期)
(なお目次については、本誌第52号をご参照下さい)

(以上)

‡ 会員の研究成果 (1990.8~1991.7)

○荒川正晴

- * 「スタイン将来「蒲昌群文書」の検討—Ast. III. 3. 07, 08, 037号文書の分析を中心に—」『西北史地』1990年第2期 1990年6月 23~44
- * 「【研究会活動紹介】吐魯番出土文物研究会活動報告—附. 『吐魯番出土文物研究会会報』(第1号~第50号) 総目次—」『唐代史研究会会報』第4号 1991年7月 29~33

○片山章雄

- * (井ノ口泰淳・原田武子と共著) 「大谷光瑞をめぐる11のエピソード」『太陽』第29巻第6号 1991年6月 79~91

○白須淨眞

○關尾史郎

- * 「トゥルファン出土高昌国税制関係文書の基礎的研究—條記文書の古文書学的分析を中心として—」(三) 『人文科学研究』(新潟大学人文学部) 第78輯 1990年12月 151~179
- * 「「田畝作人文書」小考—トゥルファン出土高昌国身分制関係文書研究序説—」(上) 『新潟史学』第26号 1991年5月 59~72
- * 「「建平」の結末—『吐魯番出土文書』劄記(四)—」(補遺) 『新潟史学』第25号 1990年10月 49~60
- * 「「章和五(535)年取牛羊供祀帳」の正体—『吐魯番出土文書』劄記(七)—」(IV) 『史信』(新潟大学關尾ゼミ) 第16号 1990年8月 2~4
- * 陳國燦著「長安、洛陽よりトゥルファンに将来された唐代文書について」『東洋学報』第72巻第3・4号 1991年3月 65~93
- * 「批評と紹介：周偉洲著『南凉与西秦』」『東洋学報』第72巻第3・4号 (同上) 133~139
- * 「(甘肅省文物展二題) 図録の錯誤について」『史信』第18号 1990年12月 2

○町田隆吉

- * 「吐魯番出土文書に見える仏教寺院名について—吐魯番出土文書研究ノート(1)—」『研究紀要』(東京学芸大学附属高等学校大泉校舎) 第15集 1990年11月 27~42
- * 「(シルクロード) オアシス都市トルファン」『ウータン』第106号 1991年5月 78~85

(以上)

‡ 『吐魯番出土文物研究会会報』（第43号～第66号・別冊）総目次

- 第43号，1990年8月15日発行
* 關尾史郎「吐魯番文書にみえる四・五世紀の元号再論－侯燦「晋至北朝前期高昌奉行年号証補」を読む－」（下・完）
- 第44号，1990年9月1日発行
* 關尾史郎「高昌文書にみえる官印について－『吐魯番出土文書』割記（九）－」（Ⅲ・完）
* 片山章雄編「渡邊哲信関係文献目録」
* 「【新刊】『吐魯番出土文書』第九冊（北京 文物出版社、1990年）」
* 關尾史郎「【覚書】「班示」という様式の高昌文書について」
- 第45号（特集・新著紹介Ⅲ），1990年9月15日発行
* 1988年中文論著紹介・Ⅲ
陳國燦「対高昌国某寺全年月用帳的計量分析－兼析高昌国の租税制度－」／朱雷「敦煌藏經洞所出兩種麴氏高昌人写經題記跋」／張廣達「唐滅高昌国後の西州形勢」／程喜霖「烽鋪考」／程喜霖「《唐開元二十一年（733）西州都督府勘給過所案卷》考釈－兼論請過所程序与勘驗過所－」（下篇）／楊際平「唐代西州欠田、退田、給田諸文書非均田説－兼与日本学者西村元佑、西嶋定生先生商榷－」
- 第46号（特集・第4回大会），1990年10月1日発行
* 活動記録
* 発表要旨
荒川正晴「7世紀の史料にみえる鄔落馬と烏駱子」／片山章雄「渡邊哲信の中央アジア探検、将来品」／白須淨眞「新疆維吾爾自治区における唐代の城郭都市遺跡について－近十年における調査報告の紹介を中心として－」／關尾史郎「「延壽元（624）年六月勾遠行馬價錢勅符」をめぐる諸問題」／町田隆吉「麴氏高昌国時代寺院僧尼土地関係文書瞥見」
* 「【紹介】《西域史論叢》編輯組編『西域史論叢』第三輯（烏魯木齊 新疆人民出版社、1990年）」
* 「“中国吐魯番学学会” 結成さる!!」
* 關尾史郎「「トゥルフアン出土唐代税布墨書銘集成（稿）」補遺」
- 第47号（特集・吐魯番の歴史と文化Ⅲ），1990年10月15日発行
* 榮新江著／青木 茂・關尾史郎訳注「吐魯番の歴史と文化」（Ⅲ）
* 關尾史郎「「吐魯番文書にみえる四・五世紀の元号再論」の附記」
- 第48号（特集・吐魯番の歴史と文化Ⅳ），1990年11月1日発行
* 榮新江著／青木 茂・關尾史郎訳注「吐魯番の歴史と文化」（Ⅳ）
- 第49号，1990年11月15日発行
* 關尾史郎「高昌文書中の「劑」字について－『吐魯番出土文書』割記（八）－」（再補）
* 片山章雄「渡邊哲信略伝（稿）」
* 「【紹介】馬雍『西域史地文物叢考』（北京 文物出版社、1990年）／侯燦『高昌樓蘭研究論集』（烏魯木齊 新疆人民出版社、1990年）」
* 「【案内】大英博物館－芸術と人間－展」
- 第50号（陳國燦先生来日号），1990年12月1日発行
* 座談会の記録
* 陳國燦先生略歴

- * 陳國燦先生主要著作目録
- * 荒川正晴「古書展に出品された北館文書について」
- * 「【紹介】許海生主編『新疆古代民族文化論集』(烏魯木齊 新疆大学出版社、1990年)」
- 別冊(第1号~第50号総目次), 1990年12月1日発行
 - * 内容別総目次
 - * 「本誌への投稿について」
- 第51号(特集・文書閲覧), 1990年12月15日発行
 - * 大谷文書閲覧記録(大谷1306, 1307, 1448, 1449, 1452~1457, 1459, 1461~1463, 1465, 1467, 1470, 1502, 2406, 2937)
 - * 「【案内】(現代書道二十人展第三五回記念)トゥルファン古写本展」
- 第52号(榮新江先生来日号), 1991年1月1日発行
 - * 榮新江先生略歴
 - * 榮新江先生著作目録
 - * 吐魯番出土文物研究会編「『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次」(Ⅱ)
 - * 關尾史郎「【覚書】武威出土の前凉木牘について」
- 第53号(特集・墳墓整理), 1991年1月15日発行
 - * 荒川正晴編「阿斯塔那・哈拉和卓古墳群墳墓一覽補訂」
- 第54号(特集・論著目録稿), 1991年2月1日発行
 - * 關尾史郎編「吐魯番出土文物關係論著目録(稿) - 1988年・中文篇 -」
 - * 「【案内】ドイツ・トゥルファン探検隊西域美術展」
 - * 「【紹介】《北朝研究》編輯部編『北朝研究』」
- 第55号(特集・論著目録稿), 1991年2月15日発行
 - * 關尾史郎編「吐魯番出土文物關係論著目録(稿) - 1959~1987(含年次未詳)・中文篇/補遺 -」
- 第56号(特集・吐魯番の歴史と文化Ⅴ), 1991年3月1日発行
 - * 榮新江著/青木 茂・關尾史郎訳注「吐魯番の歴史と文化」(Ⅴ)
 - * 關尾史郎「「トゥルファン古写本展」參觀記 - 「高昌延壽四(六二七)年九月仁王般若經題記」のこと -」
- 第57号(特集・吐魯番の歴史と文化Ⅵ), 1991年3月15日発行
 - * 榮新江著/青木 茂・關尾史郎訳注「吐魯番の歴史と文化」(Ⅵ)
- 第58号(特集・唐代領抄文書), 1991年4月1日発行
 - * 關尾史郎編「中央アジア出土唐代領抄文書一覽」
- 第59号(特集・文書閲覧), 1991年4月15日発行
 - * 大谷文書閲覧記録(大谷3615, 4033, 4038, 4117, 4156, 3009~3014[4897], 4904, 4913, 橋, 1014[1057], 1312, 3004, 3496, 4898[4899], 4903, 4909, 4932)
- 第60号(特集・新著紹介Ⅰ), 1991年5月1日発行
 - * 1989年中文論著紹介・Ⅰ
 - 新疆首屆考古專業人員訓練班「交河故城、寺院及雅爾湖古墓發掘簡報」/林聰明「吐魯番文書解讀要點試論」/廖名春「吐魯番出土文書語詞初探」/彭琪「麴氏高昌王国史論雜談」/王素「麴氏高昌中央行政体制考論」
 - * 荒川正晴「「古書展に出品された北館文書について」補訂」
- 第61号(特集・新著紹介Ⅱ), 1991年5月15日発行
 - * 1989年中文論著紹介・Ⅱ
 - 謝重光「麴氏高昌賦役制度考辨」/楊際平「麴氏高昌賦役制度管見」/陳良文「從《高

昌乙酉、丙戌歳某寺条列月用斛斗帳歴》看高昌寺院經濟」／呉震「吐魯番出土高昌某寺月用斛斗帳歴浅説」／薛宗正「以儒学為主体的高昌漢文化」／王素「麹氏高昌曆法初探」

○第62号（特集・新疆文物Ⅱ），1991年6月1日発行

*吐魯番出土文物研究会編「『新疆文物』総目」（Ⅱ）

*關尾史郎「高昌国の侍郎をめぐる諸研究」（上）

○第63号（特集・論著目録稿），1991年6月15日発行

*關尾史郎編「吐魯番出土文物関係論著目録（稿）－1990・国内篇－」

*關尾史郎「高昌国の侍郎をめぐる諸研究」（下・完）

○第64号（研究特集Ⅰ），1991年7月1日発行

*關尾史郎「高昌「田畝（得・出）銀錢帳」について－『吐魯番出土文書』割記（一〇）－」（上）

○第65号（研究特集Ⅱ），1991年7月15日発行

*片山章雄「李柏文書（538B）の冒頭部分－李柏文書覚え書（1）－」

*關尾史郎「高昌「田畝（得・出）銀錢帳」について－『吐魯番出土文書』割記（一〇）－」（中）

○第66号（特集・第5回大会），1991年8月1日発行

*第5回吐魯番出土文物研究会大会のご案内

*本会受贈図書・雑誌一覧（1990.8～1991.7）

*会員の研究成果（1990.8～1991.7）

*『吐魯番出土文物研究会会報』（第43号～第66号・別冊）総目次

*1989年中文論著紹介・Ⅲ

姜伯勤「敦煌新疆文書所記的唐代“行客”」／呉震「唐庭州西海峽之置建与相關問題」

★

★

★

★

なおこのほか、本誌第1号から第50号までと別冊を合冊した、『吐魯番出土文物研究情報集録——吐魯番出土文物研究会会報1－50号——』が、平成2年度科学研究費補助金（総合研究B）“中央ユーラシア諸民族の歴史・文化に関する国際共同研究の企画・立案”の成果報告書の第二冊として、発行されました（編集：本会、発行者：梅村 坦、1991年3月）。

（以上）

◆新 著 紹 介 Ⅲ

◆姜伯勤「敦煌新疆文書所記的唐代“行客”」

（国家文物局古文献研究室編『出土文献研究続集』北京 文物出版社、1989年12月、277～290）

表題に掲げる「行客」は、唐代の編纂史料をはじめ敦煌や南疆各地から出土した文書に散見する言葉で、私見によれば、その存在を如何に解釈するかは、唐の西域経営の本質にかかわる重要な問題でもあると考えられる。ところが、意外にもこの言葉を正面から取り上げた専論はなく、これまで付随的に言及されることが多かった。本論文は、こうした「行客」に関するはじめての専論であり、多くの出土文書を引用し、それらの分析からこの「行客」が具体的にどのような人々を指すのかを論じている。

本論文は、後論も含めて八節に分かれており、冒頭に手際よくこれまでの研究史を略述する。わが国の研究論文にも広く眼を通されており、それらの諸見解を踏まえた上で、第二節以降の議論が展開される。

まず、「行客」が基本的に「百姓」に対する用語であることを確認し、さらに「諸色行客」とあることから、「行客」が多様な性格の人々を内包する言葉であることを指摘する。そして、その中に兵士・商客・農業労働者などが存在することを出土文書から明らかにしている。彼らに共通しているのは、本籍に付せられた主戸ではなく、本籍を離れた客戸であることであり、「游客」とも「寄客」（非本籍地区に寄住する場合）とも呼ばれる。ただし、あくまでも「行客」は合法的な客籍人民であり、公驗あるいは過所を保持して各地を移動しており、浮逃の輩では決してない。彼らが税役を主戸と同様に負担していることも、公的に認知された存在であることを明示している。また「行客」の前身として、高昌国時代の「羈人」を想定されておられるのは、著者の新たな見解として注目される。その結論にいたる具体的な論証の過程は必ずしも明らかではないが、いずれ著者によりその詳細が公表されるものと期待する。

吐魯番・敦煌およびクチャ出土の文書を活用して到達された著者の結論は概ね妥当と認められ、わが国でもすでに中村裕一氏が、著者とほぼ同一の立場から、「行客」を簡単に商客と結び付けて考えるこれまでの傾向を批判されている（「敦煌・吐魯番出土唐代告身四種と制書について－唐公式令研究（三）－」〈『大手前女子大学論集』第10号、1976年〉、pp. 150～151、「有鄰館所蔵の唐代軍功公驗に就いて」〈『武庫川女子大学史学研究室報告』第8号、1988年〉、pp. 52～55）。「行客」に関する論議は、今後本論文で提起された見解を基に深められることになろう。（T）

◆呉震「唐庭州西海県之置建与相関問題」

（『新疆社会科学』1989年第2期、95～106）

『新唐書』卷40地理志には、宝応元年に設置されたとされる、北庭都護府管下の西海県の存在を伝えている。当県の正体については、史料的な制約もあるために、これまでわずかに松田壽男氏の見解（『古代天山の歴史地理学的研究 増補版』東京 早稲田大学出版部、1970年、pp. 309～310）が知られるのみであった。即ち、松田氏は西海県の前身は、もと鎮城鎮と呼ばれた清海軍（現在のマナスの地に比定）であり、これが昇格して西海県となった可能性を指摘されている。著者は、この問題について、近時出土の吐魯番文書を援用し、新たな見解を提出している。

まず二点の吐魯番文書（「唐寶應元（七六二）年建午月四日節度使衙榜西州文」〈73TAM509：8/26（a）〉、「唐庭州西海縣横管状為七德寺僧妄理人事」〈73TAM510：03〉）の検討から、西海県の設置が宝応の改元以前に求められることを確認し、さらにその設置が、当時の唐蕃抗争の結果、伊西北庭節度使の治所（使衙）が北庭より西州に移される状況に応じたものであり、時期としては上元二（七六一）年の可能性が大きいことを指摘されている。『新唐書』卷40地理志に宝応元年とあるのは、西海県設置に対する唐の朝廷の勅許が下りた年であるとされる。その後まもなく、節度使の使衙が北庭に復すと、ここ西海県も同時に廃されたと推測する。

またその設置場所については、当時の軍事情勢から判断して、これを破城子（今の塩湖化工場）付近に求められている。

これまで曖昧にされてきた西海県の設置問題を、吐魯番文書と当時の西域情勢の詳細な検討から明確にされた功績は高く評価される。今後この著者の見解を検証してゆく作業が残されているが、安史の乱後における不透明なトルファン周辺の歴史状況を解明するうえに、現段階では何よりも本論文のような着実な史実の蓄積が求められている。（T）

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川正晴方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)